

平成29年度全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイント

甲府市教育委員会学校教育課

文部科学省は、本年4月18日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果をこのほど公表しました。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や児童生徒の生活状況の実態等を明らかにすることにより、各学校における児童生徒への指導内容の充実や指導方法の改善、日々の生徒指導等に役立てることを目的としております。

各学校におきましては、自校の調査結果を分析し、課題等を明らかにした上で、指導方法の改善等に役立てながら授業を行っております。また、分析結果につきましては、学校便りなどを通して保護者や地域住民の皆様にお知らせするとともに、各学校のホームページにも掲載する予定です。

なお、各学校では、調査に参加した児童生徒並びにその保護者に対しまして、個別懇談等を通して、個人結果票をもとに、個々の課題や今後の努力点を丁寧に説明し、課題等を共有しながら学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

甲府市教育委員会としましても、市内各小中学校の調査結果を分析、検討し、本市としての全体的な状況や課題等を次のとおりにまとめ、今後、各小中学校への指導助言に役立てて参ります。



【お問い合わせ先】

〒400-8585

甲府市丸の内 1-18-1

甲府市教育委員会 学校教育課

電話 055-223-7321 FAX 055-235-5648

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 平成29年4月18日(火)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年、中学校第3学年

○調査内容

[教科に関する調査] (国語、算数・数学)

◇主として「知識」に関する問題 (A問題)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活に不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

◇主として「活用」に関する問題 (B問題)

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な問題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

[生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査]

◇児童生徒に対する調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

◇学校に対する調査

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校	6年生・1381人
中学校	11校1分校	3年生・1348人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果

【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)				中学校(3年生)			
		国語		算数		国語		数学	
		A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
全 国		74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
山 梨 県		74	56	77	43	79	74	64	49
甲府市	国との比較	○	○	△	△	○	○	△	○
	県との比較	○	○	○	○	○	○	○	○

※今年度から、県および市・各学校等の平均正答率は整数で発表されることとなった

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科（国語、算数・数学）において、全国と比べて、±5%の範囲内にあり、**全国とほぼ同程度**である。

○教科に関する調査の平均正答率は、全国との比較の中で、約-2%から+2%の範囲内にある。

〔小学校〕

- ・国語A、Bは、全国及び県と同じか上回っている。算数A、Bは全国を下回っているが、県と同じか上回っている。昨年度と比べると、全国平均正答率との差は縮まっており、全国との差は、少しずつ改善していく傾向がうかがえる。

〔中学校〕

- ・国語A・B、数学Bは昨年同様、全国及び県と同じか上回っている。数学Aは全国をわずかに下回っている。

◇「知識」(A問題)、「活用」(B問題)ごとに見た場合の傾向

1) 全国の平均正答率との差で見ると

- ・小学校では、国語に比べ、算数において全国との差が大きい。算数では、AよりBに課題が多く見られる。教科で見ると、国語Aで改善が見られ、国語Bの結果は良好である。
- ・中学校では、B問題に比べ、A問題に課題が見られ、基礎学力の定着が必要となる。教科で見ると、国語の結果は良好で、数学についての取組が必要となる。

2) 正答数で見ると

- ・小学校・中学校とも、算数・数学の正答数が少なく、小学校では「活用」に関する問題に課題があり、中学校では「知識」に関する問題に課題がある。

2) 各教科の結果

■ 小学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H27年度 該当なし、H28年度 該当数2〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	2 一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6年 書くこと	
A	4 一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	5・6年 読むこと	H25A6 アイ
B	1 二	グループの話合いの中で、石田さんたちはスピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているか書く	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	5・6年 話すこと 聞くこと	H25A7 H25B1 一二三

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

[H27年度 該当問題数5, H28年度 該当問題数2]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	7(4)	漢字を読む (事務室前)	学年別漢字配当表に示された漢字を正しく読む、書く	5・6年 文字に関する事項	
A	7(5)	漢字を書く (箱がおいてあります)			
B	3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	5・6年 読むこと 書くこと	H25B3 アイウ H26A5 H27A6

【正答率が40%に満たないもの】

[H27年度 該当問題数2, H28年度 該当問題数1]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
B	2三	「水やりに協力してくれる人をば集します」の〔イ〕に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ必要な内容を整理して書く	5・6年 書くこと	H24A7 B1二 H25B1 三2一 H26B2二 H27B1 二三 H27B2 二
B	3二	「きつねの写真」を読んだあととの話合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	5・6年 読むこと	
B	3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	5・6年 読むこと 書くこと	H25B3 アイウ H26A5 H27A6

【本市の傾向・課題】

○基本的な知識や技能の定着に課題がある。

- ・「漢字を正しく読んだり書いたりすること」については、今年度は改善された設問もあるが、全国との差がある設問は依然として多く、粘り強い取組が必要である。
- ・A問題では15問中8問が全国平均を上回っている。また、下回った場合も、その差は比較的小さいものが多く、全体として改善する傾向がみられた。
- ・B問題については、9問中5問で全国平均を上回っている。また、下回った場合もその差はごくわずかなものがほとんどで、全体として良好であった。

【改善のための方策】

○漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定する指導の充実

- ・漢字練習、漢字の構成、漢字辞典の活用、同訓異字などの学習を行う。また、ノートをとる時や学習感想等を書く時、連絡帳等に文や文章を書く際など、漢字を正しく使うように指導する。
- ・家庭学習における漢字練習の取組では、繰り返し書いて練習するだけでなく、練習する漢字を使った短文を書くような学習にも取り組めるようにする。

○収集した情報や読みとったことを基に、整理して書くことや理由を明確にして書く指導の充実

- ・目的や意図に応じて、取材の方法等を工夫して書く事柄を収集し、その中から事実と自分の感想や意見などを区別しながら内容を整理して書くことなどを丁寧に指導する。
- ・日常の読書で、叙述と自分の体験や他者の解釈とを結びつけたり、他の作品と比べたりして読むことを指導する。また、場面の展開に沿って、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた表現に着目して自分の考えをまとめることができるよう指導する。

■ 小学校算数

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H27年度 該当なし、H28年度 該当問題数2〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度もずつに分割すればよいかを書く	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している	5年 図形	H24A6(1) H28B5(1) (2)

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H27年度 該当問題数16、H28年度 該当問題数5〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	8	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたとき、問題場面を表す式を選ぶ	未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる	3年 数量関係	H26A9
A	9 (2)	二次元表の合計欄に入る数を書く	資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる	4年 数量関係	H21A8
B	3 (2)	仮の平均の考え方を活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考え方を解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	4年 数量関係 5年 量と測定	H24A4 H25B2(1) 中学校 H19A15

B	4 (1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる	4年 数量関係	H21A8 H22B3(2) H28B2(3)
B	5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる	3年 図形 5年 数量関係	H19B4(1) H20A4(1)(2) H22A9(1) H24B5(3) H23A9未実施 H25B5(2) H26B5(3) H27B5(2)(3)

【正答率が40%に満たないもの】

〔H27年度 該当問題数4, H28年度 該当問題数4〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
B	1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	4年・5年 数量関係 5年 数と計算	H20B2(3) H25B2(2)
B	2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのには、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	3年 数と計算 5年 数と計算	H27B3(1)
B	3 (2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考え方を解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	4年 数量関係 5年 量と測定	H24A4 H25B2(1) 中学校 H19A15
B	4 (1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる	4年 数量関係	H21A8 H22B3(2) H28B2(3)
B	4 (2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる	3年 数量関係 5年 数量関係	H26B2(3) H27A7

B	5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる	3年 図形 5年 数量関係	H19B4(1) H20A4(1)(2) H22A9(1) H24B5(3) H23A9未実施 H25B5(2) H26B5(3) H27B5(2)(3)
---	-------	--	--	------------------------	--

【本市の傾向・課題】

- 「数と計算」「量と測定」の領域では、多くの児童が今回出題された内容について、おおむね理解しており、全国との差も比較的小さい。ただ、四則の混じった計算には課題がある。
- 基本的な知識や技能の定着に課題がある。
 - ・「数量関係」の領域や「図形」の領域で全国との差が比較的大きい。
- 知識や技能を活用する力に課題がある。
 - ・「数量関係」の領域や「図形」の領域で、数学的な考え方を試される問題での正答率が低く、中でも、式やグラフの読み取り、適用すること等に課題がみられた。これは、全国や県と同様の傾向である。

【改善のための方策】

○「数量関係」に関する学習の充実

- ・四則の混合した式の計算や四則に関して成り立つ性質について十分に習熟させるようにする。
- ・集めた資料を整理、分類して表やグラフに分かりやすく表したり、特徴を調べたりする活動やグラフどうしを関連付けて考えるといった、表やグラフを活用する学習を充実させる。
- ・問題の場面を図に表す、図に表したことを式にする、説明したことを図や式に表すといった、図や式、数直線等と結び付けて数量の関係の説明を深める指導を充実させる。

○情報を数学的に処理したり、示された方法を適用させたりする指導の充実

- ・日常で起こりうる様々な問題を提示し、その解決のため必要な情報を収集して、その中から解決に役立つものを選択する学習や示された方法を別の場面で適用して問題を解決するといった学習活動を設定する。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

[H27年度 該当問題数8, H28年度 該当問題数6]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	5一	(立候補者から)の欄の書き方を説明したのものとして適切なものを選択する	文章の構成を工夫して分かりやすく書く	2年 書くこと	
A	9—1	漢字を書く(組織の <u>キボ</u> を大きくする)	文脈に即して漢字を正しく書く	2年 書くこと	
A	9—2	漢字を書く(雨で運動会が <u>エ</u> <u>ンキ</u> になる)	文脈に即して漢字を正しく書く	2年 書くこと	
A	9三ア	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	1年 文章の語彙	H24A 8七2 H26A 8三ア H26A 8五1
A	9六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	1年 行書の特徴	
B	1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する	1年 読むこと 『文章の解釈』	
B	2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	1年 話すこと・ 聞くこと 2年 書くこと	
B	3三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く	必要な情報を集めるための見通しをもつ	1年 書くこと 『課題設定や取材』	H25B 1三 H28B 2三

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

[H27年度 該当問題数1, H28年度 該当問題数3]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	9三ウ	適切な敬語を選択する(先生もこの書店をよく <u>ご利用</u> になるのですね)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	2年 敬語の働きの理解	

【正答率が40%に満たないもの】

[H27年度 該当問題数3, H28年度 該当問題数2]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	9五	話合いの記録として適切な言葉を考える	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	1年 語彙への関心	

【本市の傾向・課題】

○全国平均正答率との比較において、基礎的な知識や技能の定着、知識・技能を活用する力の双方で上回り、昨年度に比べ平均正答率も向上している。しかし、語句の意味や、適切な敬語の働きについての理解に課題がある。

<中学校 国語科のポイント>

◇本市の状況と課題

- ・国語A(知識)：平均正答率が低い問題もあるが、昨年度に引き続いて全国平均正答率を上回っている。
- ・国語B(活用)：多くの生徒が今回出題された学習内容を概ね理解しており、昨年度に引き続いて全国平均正答率を上回っている。
- ・その上で、A問題では、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題、「文脈に即して漢字を正しく書く」問題、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題、「楷書や行書の特徴を理解する」問題、B問題では「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題への取組強化が必要である。

【改善のための方策】

○言語についての知識・理解・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・漢字の指導に当たっては、正確に読み書きできるよう、漢字の特徴を理解して適切に使う機会を意図的、計画的に設定し、実生活と結びつけながら繰り返し指導を行う。
- ・日常生活や社会生活の中で使われる、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章で用いる語彙を豊かにしようとすることが大切である。また、各教科等の学習や読書活動をする中で出会った多様な語句を取り上げて指導することも効果的である。

○根拠を明確にして感じたことや考えたことを書く

- ・文章を読んで感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切である。その際、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえるように指導することが重要である。

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

[H27年度 該当問題数10, H28年度 該当問題数5]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	3(2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1年 数と式	H21A3(3) H23A3(2)
A	14(1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している	1年 資料の活用	
A	14(2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる	1年 資料の活用	H25A14(2)
B	1(2)	四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様に重なるとき、どのような回転移動になるか説明する	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	1年 図形	
B	1(3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる	1年 図形	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

[H27年度 該当問題数3, H28年度 該当問題数5]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	1(1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	小学校6年 数と計算	H23A1(1) H25A1(1) H28A1(1)
A	1(3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1年 数と式	H19A1(4) H23A1(4) H27A1(2)
A	3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2年 数と式	H19・H20・ H21・H22 H23A3(4) H24A3(2) H26A3(4) H27A3(4)

A	6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している	2年 図形	H21A6(1) H27A6(1)
A	11(2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している	2年 関数	H26A11(1)
A	15(2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率をもとめる	簡単な場合について、確率を求めることができる	2年 資料の活用	H25A15(2) H26A14(2) H28A13(2)

【正答率が40%に満たないもの】

[H27年度 該当問題数6, H28年度 該当問題数13]

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	4(3)	半径が5cm、中心角が120°の扇形の弧の長さを求める	扇形の弧の長さを求めることができる	1年 図形	H24A4(3)
A	6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している	2年 図形	H21A6(1) H27A6(1)
A	9	長方形の縦の長さと面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1年 関数	H26A9
A	10(3)	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している	1年 関数	
A	14(1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している	1年 資料の活用	
B	1(2)	四角形A B C Dの模様が1回の回転移動によって四角形B E F Gの模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	1年 図形	
B	2(3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n-1)$ という式で求めることができることを説明する理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	1年 数と式	H25B6(3)

B	3(2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が 1500 万 m ³ になるまでに 5 月 31 日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	2年 関数	H25B3(2)
B	5(3)	「420 分未満より 420 分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1年 資料の活用	

【本市の傾向・課題】

○全国平均正答率との比較において、基礎的な知識や技能の定着、知識・技能を活用する力の双方で、全国とほぼ同様である。しかし、平均正答率が 4 割に満たない問題が 9 問あるのは課題である。

<中学校 数学科のポイント>

◇本市の状況と課題

数学 A (知識) : 基本的な知識や技能の定着に課題が見られ、昨年度同様に全国平均正答率よりわずかではあるが下回っている。

数学 B (活用) : 平均正答率が高い問題もあり、全国平均正答率を上回っている。昨年度同様に説明を求める記述式の問題で課題が見られる。

「分数の乗法の計算」「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがつてする計算」「簡単な連立二元一次方程式」などを確実にできるようにすることが必要になる。また、「与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解すること」や「簡単な場合について、確率を求ること」などへの取組も重要になる。

【改善のための方策】

○数量や図形、関数についての基礎的な知識・理解・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識・理解・技能の確実な定着を図るために、技能的な面だけでなくその意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態に即したきめ細かな指導を継続して繰り返し行う。

○自分の考えを文章にまとめる指導、他者に説明する指導の充実

- ・問題解決のため、前提として、必要な条件や資料の傾向を的確に捉えて筋道を立てて考え、数学的な表現を用いて説明できるよう、生徒同士の学び合いを含めた多様な学習活動を行う。
- ・日々の授業において、見通しと振り返りを意識的に行うことを継続し、学習過程に自力解決・学び合いの機会を設定し、主体的で対話的な授業を工夫して深い学びにつなげる。

(3) 無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

全国より無解答率が高かった設問数					
	年度	国語A	国語B	算数A・数学A	算数B・数学B
小学校	H28 年度	5問／15問中	1問／10問中	3問／16問中	1問／13問中
	H29 年度	7問／15問中	4問／9問中	1問／15問中	6問／11問中
中学校	H28 年度	13問／33問中	2問／9問中	4問／36問中	5問／15問中
	H29 年度	0問／32問中	0問／9問中	3問／36問中	1問／15問中

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・小学校では、昨年度に比べて、無解答率が全国を上回った設問の数は若干増加している。
- ・中学校では、全般的に無解答率が全国を上回った設問の数は減少している。

○全国との比較の視点から

- ・小学校、中学校とも、国語A・B問題、算数A・B問題、数学A・B問題の全てで、無解答率が全国を5ポイント以上上回った設問はない。全国との差は、小学校で最大で2.7ポイント、中学校で最大0.3ポイントであり、粘り強く解答する様子がうかがえる。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では国語A問題においては、「漢字を正しく書く」設問で、無解答率が全国よりも高くなっているものがあり、設問によっては10%を超えていている。
- ・小学校では、算数B問題において無解答率が高い設問は、いずれも数学的な考え方に関わる問題であり10%を超えてている。
- ・中学校では、数学A問題において無解答率が高い設問は、基本的な事項に関わる問題であり、10%を超えてている。
- ・小学校、中学校共通して論理的記述を求められる設問に対する無解答率が高くなる傾向がある。

【改善のための方策】

これまで無解答率の改善に向けて、「あきらめずに最後まで解答する」姿勢を重視して指導してきた。しかし、昨年度および今年度の傾向を考えると、「理由を明確にして説明する」ことや「論理的説明を記述する」力をつける指導が重要であると考えられる。そのためには、昨年度その対策のひとつとして示した「ノート指導」のなお一層の工夫と充実を図る必要がある。また、学習の中で、自分の考えを説明する場面や振り返りの活動で学習内容の確認や感想、批評等を書く場面などで、自分の意見の根拠となる事柄や理由等をあわせて、発表したり記述したりする指導を繰り返し行うことが効果的と考えられる。

平成29年度全国学力・学習状況調査「結果の分析と活用」

調査結果を踏まえた学校の取組

1 先生方が調査問題を解く

全国学力・学習状況調査の実施は小学校6年生（中学校3年生）ですが、調査問題には小学校1～5年生（中学校1～2年生）までの内容が盛り込まれています。調査問題の内容や調査の結果で課題になった内容については、全教職員での共通理解が必要です。調査問題の内容は、「どの学年」「どの内容」に関わっているのかを確認しましょう。

2 調査結果の概況に自校の結果の記入する

全国平均との差が大きい設問、正答率の低い設問、無回答率の高い設問に注目します。県の結果と比較しながら各校における成果と課題をまとめ、4月からの取組を見つめ直してみましょう。

分類	区分	国語A			国語B		
		対象設問数	平均正答率 (%)		対象設問数	平均正答率 (%)	
			全国	県		全国	県
	全体	15	74.8	74		9	57.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	69.2	69.6		3	64.9
	書くこと	2	60.6	61.1		5	53.4
	読むこと	3	70.2	70.8		3	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	78.0	77.1		0	

3 設問ごとの解答状況を確認

解答類型票には、各設問について解答類型ごとの反応率を示しています。誤答や無回答率が高い設問に着目すると授業改善のヒントが見えてきます。その設問の解答類型を見ながら授業改善を考えます。

算数B

1段目：山梨県（公立）の割合 2段目：全国（公立）の割合（%）

※太字かつ下線付きの箇所の類型が、正答を表す。

問題番号	問題の概要	解答類型									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	75.7	2.2	5.1	0.8	3.0				11.2	2.1
		76.0	2.2	5.4	0.7	3.2				10.4	2.0
1 (2)	示された考えを基に、 $54 - 45$ の場合で残る部分を図に表す	81.9	0.0	0.0	1.1	1.9	0.3			10.6	4.2
		81.8	0.0	0.0	1.6	1.9	0.4			10.4	3.9

4 授業改善に向けて～誤答に着目する～

正誤だけでなく、児童生徒の誤答の状況（どこでつまずいているのか）等に着目し、学習指導の改善・充実を図りましょう。

類型4が11.7%で反応率が高い

問題番号	問題の概要	解答類型									無解答	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
4 (1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	県	33.1	2.6	8.3	11.7	6.0	5.9	7.4		19.5	5.6
		全国	39.8	2.3	7.6	9.4	7.4	5.4	6.1		17.2	4.8
	自校											

自校の数値を記入し、県や全国の数値と比べてみましょう。

「平成29年度全国学力・学習状況調査 結果の分析と活用」（平成29年9月8日学力向上フォーラム資料、「平成29年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善」（平成29年6月管理職研修会で配付）, 国の調査資料（解説資料、報告書、授業アイディア例）等を参考にして、指導の改善・充実を図りましょう。また、「やまなしスタンダード」の7つの視点、授業改善リーフレット「甲府スタイルの授業」を授業づくりに生かしてください。

3 質問紙調査の本市の結果について

(1)児童生徒質問紙調査の特徴

①小学校【児童質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
5	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	4.6
6	自分には、よいところがあると思う	3.4
10	将来の夢や目標を持っている	4.3
14	普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く） ※1時間以上する児童が全国平均より4.1ポイント少ない	-4.1 ※左欄参照
19	星休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行く	4.2
32	家で、学校の授業の復習をしている	5.1
38	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	4.5
39	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	6.9
40	今住んでいる地域の行事に参加している	3.5
47	外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う	3.5
54	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	4.1
64	5年生までに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う	3.3
69	国語の勉強は好き	3.5
72	読書は好き	4.2
75	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	3.1
76	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている	3.0
81	算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う	3.4
83	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	3.5

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
63	5年生までに受けた授業で扱うノートには学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	-8.9
90	調査問題の解答時間は十分だった（国語B）	-9.4
92	調査問題の解答時間は十分だった（算数B）	-12.1

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
6	自分には、よいところがあると思う	4.8
11	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている	6.5
18	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上読書する（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	3.7
19	星休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く	5.8
27	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家人と約束したことを守っている	6.4
28	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家人と決めている	3.6
29	家人（兄弟姉妹を除く）と将来のことについて話すことがある	3.2
33	家で、学校の授業の予習をしている	7.0

35	学校に行くのは楽しいと思う	4.6
37	学校で、好きな授業がある	5.3
38	学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少數意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	8.4
39	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	4.8
40	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	10.0
41	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	11.0
42	今住んでいる地域の行事に参加している	5.6
43	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	5.7
45	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	5.8
49	外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う	3.3
53	人が困っているときは、進んで助ける	4.2
56	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	9.5
57	1, 2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う	7.2
58	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う	5.9
59	1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う	8.1
60	1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う	10.2
61	1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う	8.7
62	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	5.2
64	1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	6.0
66	1, 2年生のときに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う	6.9
67	1, 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う	3.7
70	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	4.9
72	国語の勉強は大切だと思う	3.6
73	国語の授業の内容はよく分かる	4.1
74	読書は好き	5.3
75	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	4.3
76	国語の授業で目的に応じて読み、自分の考えを話したり、書いたりしている	5.9
77	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	7.1
78	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている	6.6

■ 【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
50	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたりしたいと思う	-3.7
65	1, 2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	-5.4

③児童生徒質問紙調査について

本市における質問紙調査（小9.2、中9.4設問）の結果から、全国平均と比べて3ポイント以上上回る設問が、小学校では18設問（昨年度は34設問）、中学校では37設問（昨年度は23設問）あった。反対に3ポイント以上下回る設問が、小学校では3設問（昨年度は2設問）、中学校で2設問（昨年度は4設問）となっている。小中学校とも、約8割以上の設問で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」は、小学校、中学校とも数値が上がってきてている。各学校で重点をおいて確実に取り組んでいたいたい成果であると考えられる。一方で、「ノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」という設問は、小学校・中学校とも全国平均を大きく下回っている。ねらいとまとめをノートに書くことで、本時の授業で何を学ぶのか、学んだのかが明確になる。また、そのことが家庭でスムーズに復習に取り組むことにもつながっていくと考えられる。授業での時間配分を適切に行い、授業のまとめをするとともに、学年の発達段階に応じてまとめをノートに書く活動を入れるようにしたい。

昨年度、課題だった家庭での学習時間（学習塾等を含む）について。平日1時間以上勉強する6年生の割合は昨年度に比べ4.7ポイント上昇した。また、平日2時間以上勉強する中学3年生の割合も0.7ポイント上昇。共に全国平均には届かなかつたものの改善傾向にある。家庭で学校の復習をする中学3年生は昨年度に比べ、4.7ポイントも上昇した。各校で、学習方法の指導をしたり家庭への働きかけを進めたりするなど、家庭学習の取組を確実にした結果であると考える。また、携帯電話・スマートフォンを2時間以上使用する生徒数の割合が昨年度は全国平均を上回っていたが、今年度は全国平均を下回った。小6、中3共に「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家人と約束したことを守っている」割合が全国よりも高く良好である。

中学校においては、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思うか」「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたか」「授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたか」といった、話し合いに関する設問で全国平均を大きく上回っている。

「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う（小4.6）（中10.0）」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる（小6.9）（中11.0）」も全国平均を大きく上回り、教員のきめ細かな指導や児童生徒と教員とのかかわりの良さがうかがえる。

本市の特徴でもある読書指導に関連して、「読書は好きですか」という設問に「好き」と答えた割合は、小中学校とも、4ポイント以上上回っている。また、学校内外の図書室、図書館を利用する児童生徒も多く、学力を支える言語活動に効果をもたらしていると考える。

【小学校】

(今回の調査における態度・意欲)

- 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題」「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」に対して、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童が全国平均をやや上回っている。

※【項目ごとに見た傾向】(○は良い点、△は課題のある点)

(学級活動)

○「学校で、好きな授業はありますか」は全国を上回っている。また、「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」も全国平均を上回っていて、学級内において一人ひとりを大事にした話し合いが行われていると考えられる。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」も全国平均を上回った。

〔中学校〕

(今回の調査における態度・意欲)

○国語・数学とも「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は全国平均を上回り、粘り強く問題に取り組んでいる。

(学級活動)

○「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」は全国平均を大きく上回っていて、学級内において一人ひとりを大事にした話し合いが行われていると考えられる。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」は、全国を大きく上回っている。

(2) 学校質問紙調査の特徴

1) 授業について

* () : 全国平均値、ポイント差

①授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (99.0% : +1.0)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (98.3% : +1.7)

②授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (95.4% : +4.6)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (94.3% : +5.7)

③授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	92.0% (97.4% : -5.4)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	91.6% (91.2% : +0.4)

2) 家庭学習について

①保護者に対して家庭学習を促すような働きかけをしましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (97.0% : +3.0)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	91.6% (87.6% : +4.0)

②家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	96.0% (89.6% : +6.4)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	100.0% (82.2% : +17.8)

③家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	80.0% (83.1% : -3.1)
[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」	66.7% (69.8% : -3.1)

④家庭学習の取組として児童・生徒に家庭での学習方法等を具体的に挙げながら教えるようにしましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 96.0% (92.2% : +3.8)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 91.7% (88.3% : +3.4)

3) 学校としての取組体制について

①学校全体の学力の傾向や課題について、全教職員で共有していますか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 100.0% (98.8% : +1.2)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 100.0% (98.4% : +1.6)

②校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

[小学校] 「毎日」「週に2～3日程度」 96.0% (94.5% : +1.5)

[中学校] 「毎日」「週に2～3日程度」 91.7% (83.5% : +8.2)

4) 小中連携について

①近隣の小学校（中学校）と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 56.0% (65.6% : -9.6)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば行った」 58.3% (74.8% : -16.5)

(3) 質問紙（児童生徒及び学校）の結果を踏まえた課題と改善の方策

課題と改善の方策については「授業改善」と「家庭学習」を中心に、昨年度までのデータと比較及び児童生徒質問紙（児童生徒のとらえ方）と学校質問紙（学校のとらえ方）との比較で見ていいく。

1) 授業改善について

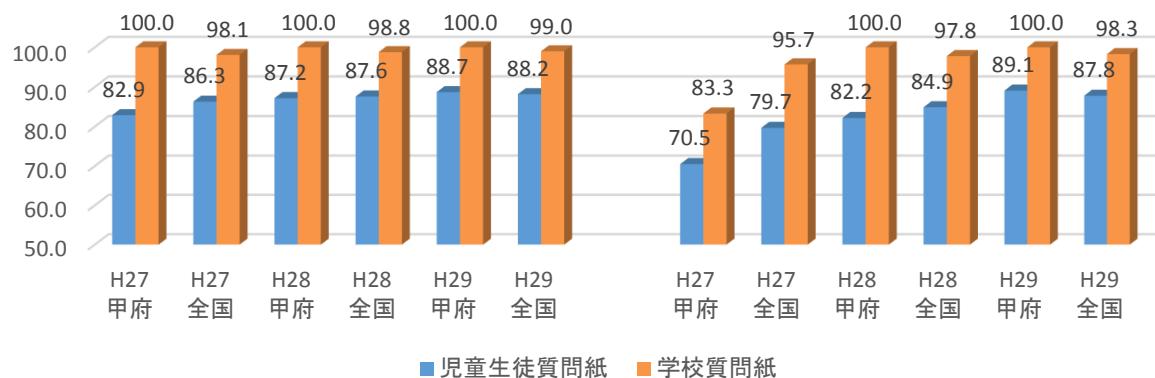
◆「見通し」と「振り返り」

本市では、学習指導要領総則で示されている「見通し」と「振り返り」の活動に着目してきたが、その活動に関わる設問において、児童生徒の捉え方と学校の捉え方のギャップが大きい（教師側では「見通し」と「振り返り」を意識した授業を行っていると思っているが、児童生徒にはその実感が伴っていない）ことが課題となっていた。

〔見通し〕

児童生徒：「小5年生までに(中1、2年生のときに)受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」

学校：「前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」（左表：小学校／右表：中学校）

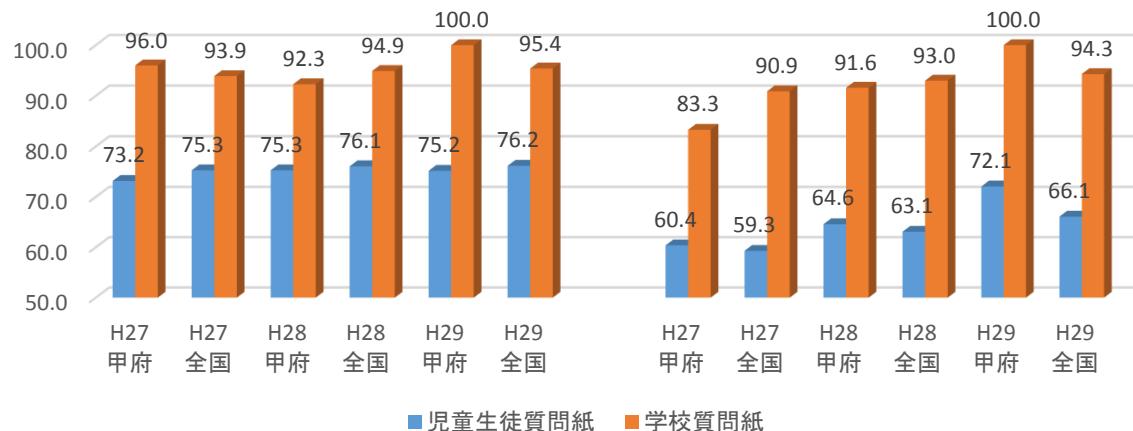


「見通し」については、今年度は小・中とも全国平均を上回った。学校質問紙との差が依然として大きくあるものの縮まり、改善傾向にある。

【振り返り】

児童生徒：「小5年生までに(中1,2年生のときに)受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」

学校：「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」(左表：小学校／右表：中学校)



「振り返り」について。児童生徒質問紙で、中学校は前年度より7.5%伸び、全国平均を大幅に上回った。しかし、グラフにもあるように「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は70%台に留まっている、学校質問紙調査とのギャップは依然として非常に大きく、改善すべき結果となっている。「振り返り」の活動は、学力の定着には重要な要素であることから、さらに、各学校において意識的に取り組んでいく必要がある。

◆授業のノートに「目標」や「まとめ」を書くこと

「授業ノートに学習の目標やまとめを書く」に関する質問については、児童生徒は依然として全国と比べて低く、課題である。

児童生徒質問紙において、小学校では、昨年度より改善傾向にあるものの、全国平均より8.9%低い。中学校でも、昨年度よりは11%以上数値は上がっているが、全国平均と比べて低い。学校質問紙調査と、児童生徒質問紙調査では差があり、生徒の捉え方と学校捉え方にギャップがある。

甲府スタイルの授業リーフレットにもあるとおり、めあてを明記して授業の目標を子どもと共有すること、できるだけ子ども自身の言葉でまとめさせること、めあて（学習課題）とまとめは対応していることなどを意識していく必要がある。

児童生徒：「小5年生までに（中1・2年生のときに）受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」

学校：「前年度までに授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか」

（左表：小学校／右表：中学校）



【改善のための方策】

1 「見通し」（「学習目標・内容の見通し」 & 「学習手順の見通し」の2つ）

- 「学習目標・内容の見通し」とは、児童生徒が到達すべきゴールを見据え、イメージすること。
(指導に当たっての留意点)

- ・目標設定のために過去の学習内容の振り返りを促し、適切な例を提示する。
- ・児童生徒にとって解決する必要性のある課題を設定する。
- ・児童生徒の考えを揺さぶる発問をする。
- ・答えや結論を予想させたり仮説を立てさせたりする機会を設ける。
- ・設定した目標を、発表等を通じて共有したり、児童生徒が見いだした問い合わせ児童生徒の表現で整理したり、予想や仮説を児童生徒同士で議論させたりする。

- 「学習手順の見通し」とは児童生徒がゴールに達するための手順を把握し、方法や手立てを考えること。

(指導に当たっての留意点)

- ・過去の学習の手順を振り返ることで類似の活動を想起させて有効な方法に気付かせる。
- ・課題を解決するための計画を立てる機会を設ける。
- ・単元や授業等の流れを教師が概括的あるいは視覚的に示す。
- ・立てた計画について既習の知識・技能を用いて記述したり、小集団で意見交換したりする。

2 「振り返り」（「学習目標・内容の振り返り」 & 「学習手順の振り返り」の2つ）

- 「学習目標・内容の振り返り」とは、学習を通して得られたものの意味や価値を明確に意識化すること。
(指導に当たっての留意点)

- ・学習過程のある区切りで、その時点で得られた成果や課題、疑問点を自分なりの言葉で記述させ、その記述をもとに、集団で意見交換し共有する。

○「学習手順の振り返り」とは、課題解決に至るまでのプロセスにおける要点を把握すること。

(指導に当たっての留意点)

- ・学習過程におけるある場面に焦点化して要点を記述するように投げかけ、その要点のノートへの記述や黒板、電子黒板への整理を基にメタ認知を促す。

3 「見通す・振り返る」活動を重視した指導改善の視点

1) タイミングやスパンを検討する。

- ・授業や単元等のはじめか、おわりか？それとも途中の効果的なタイミングか？
- ・スパンは1時間か、小単元等か、単元等か？
- ・場所は教室内か、教室外か、家庭や地域か？

2) 目的を明確にする。(何のために見通させるのか、何のために振り返させるのか)

- ・意欲を高めるため
- ・思考・判断・表現させるため
- ・知識・技能を定着させるため

3) 対象を明確にする。(何を見通させるのか、何を振り返させるのか)

- ・結果か、過程か？

4) 実施方法を工夫する。(どのように設けるのか)

- ・「書く」「読む」「話す」「聞く」といった言語活動と組み合わせる。
- ・導入課題や適応課題の解決と組み合わせる。
- ・個人的か、協同的か？

5) 用いる教材や教具と組み合わせる。(何を用いるのか)

- ・思考過程を検索しやすくするためのノートづくり
- ・思考過程の可視化に役立つワークシート、思考ツール
- ・思考過程の可視化を意識した板書

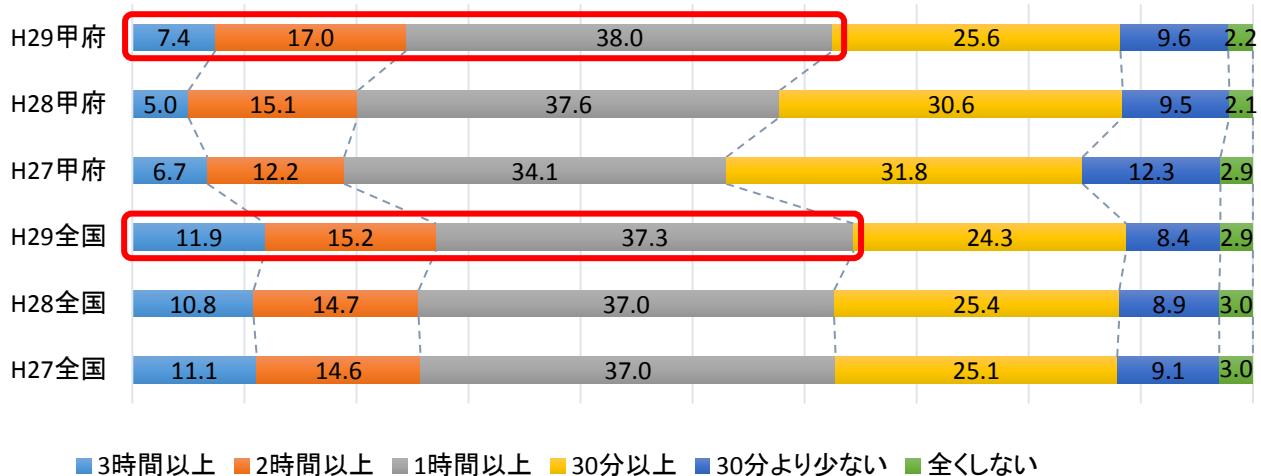
<引用・参考文献>

- ・「見通す・振り返る」学習活動を重視した授業事例集（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編）
- ・佐藤真(2010)(2014)「各教科等での「見通し・振り返り」学習活動の充実」（教育開発研究所）
- ・田村学・黒山晴夫(2014)「こうすれば考える力がつく！中学校 思考ツール」（小学館）

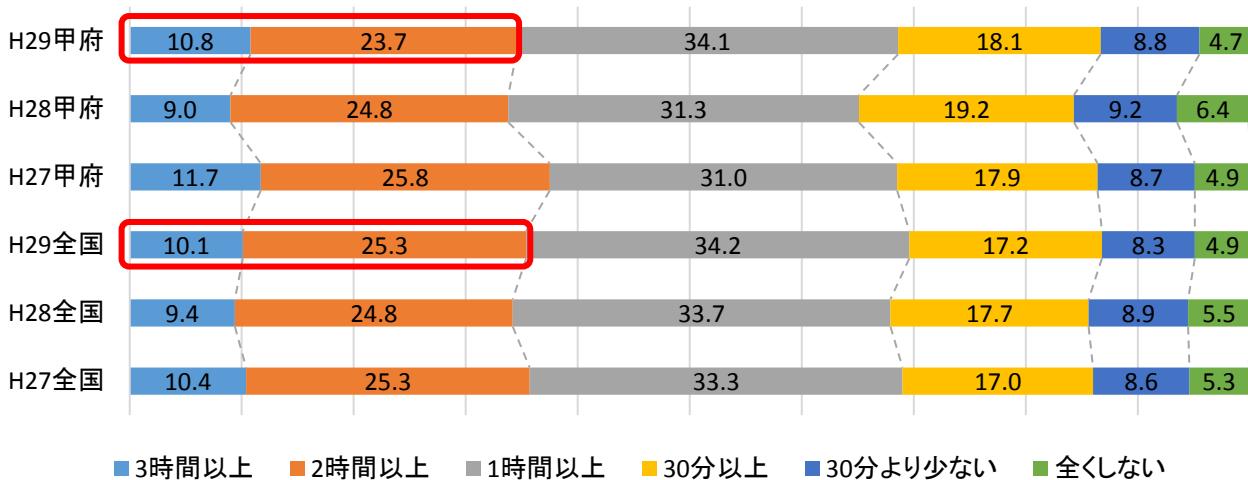
2) 家庭学習について

学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む)

(小学校)



(中学校)



【小学校】

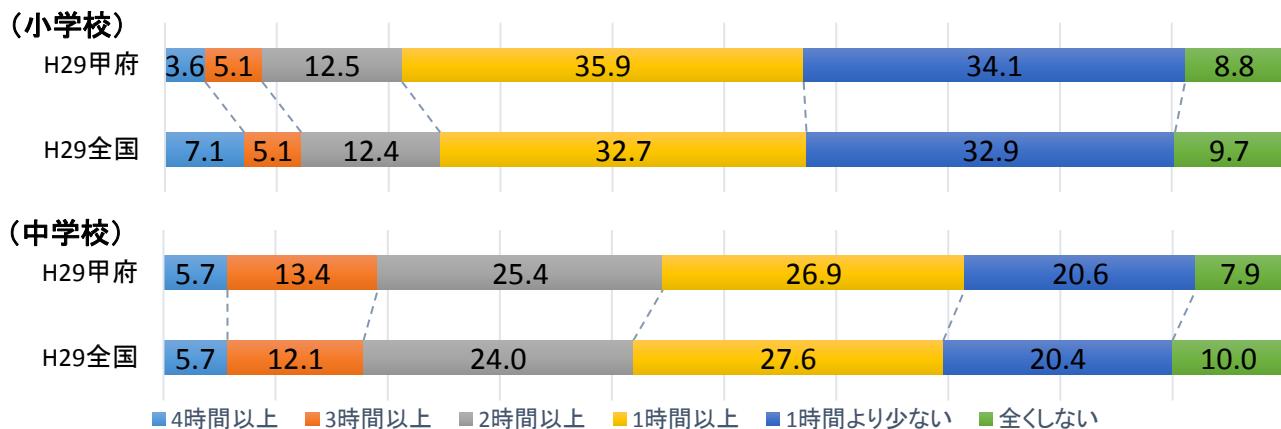
平日に1時間以上家庭学習をする児童は、全国に比べやや少ないものの、ここ3年で数値は少しづつ高くなっています。平日に家庭学習を全くしない児童の割合は減少傾向にある。各校での確実な取組の成果で学習習慣が身についてきている。家庭学習の時間を確保する指導と同時に、学校での授業とつながる宿題等を与えるなど、学校での授業を思い返すことのできる宿題を課すことが学習内容の定着、学習意欲の向上に効果的である。

【中学校】

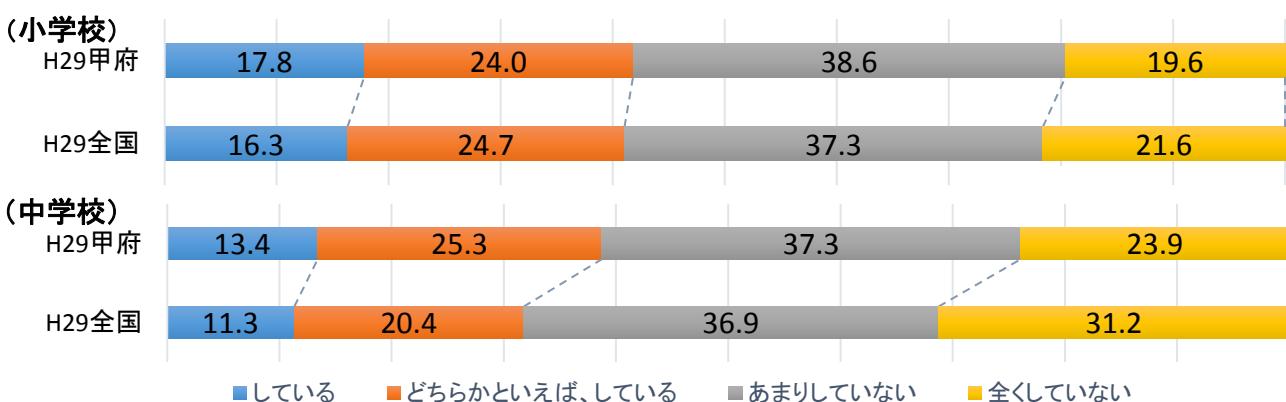
平日に2時間以上家庭学習をする生徒は、全国に比べやや少ないものの、昨年度より数値は上がって

きている。平日に全く学習しない生徒も減少している。家庭での学習と授業の振り返りは学力の定着に大切なことから、さらに家庭学習の重要性を確認し、授業を振り返ることのできる宿題を課すことを継続的に行っていく必要がある。少しでも家庭学習に取り組んだら褒めたり励ましたりするなどし、全くしない生徒を減らしていくことにも心がけたい。

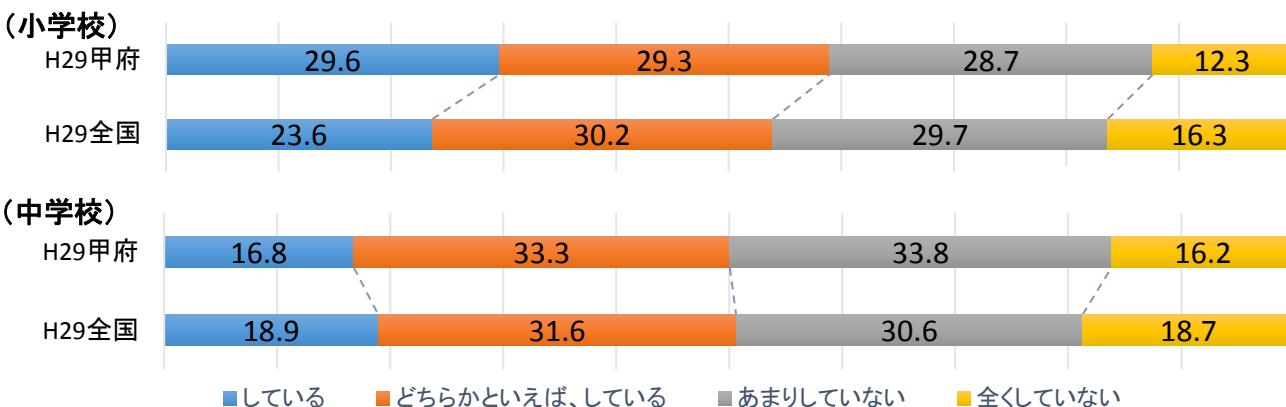
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む)



家で、学校の授業の予習をしていますか。

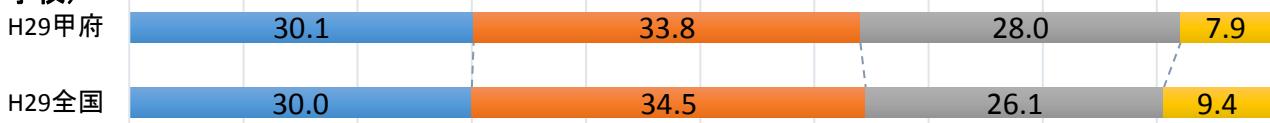


家で、学校の復習をしていますか。

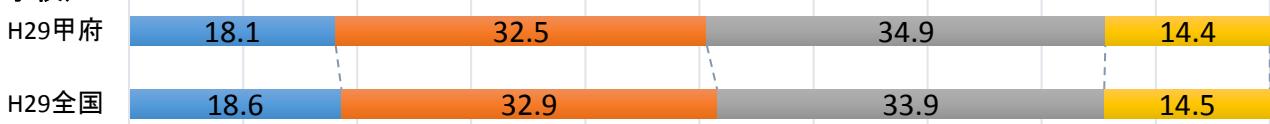


家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

(小学校)



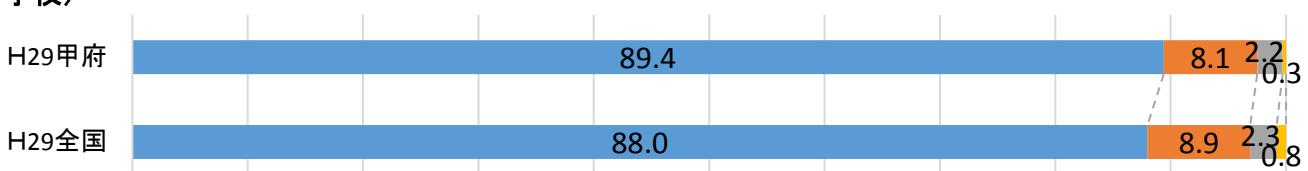
(中学校)



■している ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない

家で、学校の宿題をしていますか。

(小学校)



(中学校)



■している ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない

普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。

(小学校)



■4時間以上 ■3時間以上 ■2時間以上
■1時間以上 ■1時間より少ない ■全く見たり聞いたりしない

(中学校)



■4時間以上 ■3時間以上 ■2時間以上
■1時間以上 ■1時間より少ない ■全く見たり聞いたりしない

普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間を除く）

（小学校）

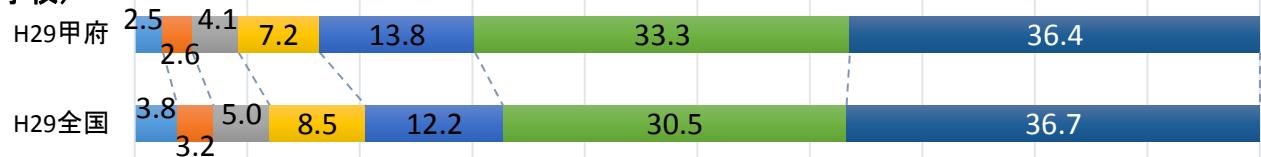


（中学校）

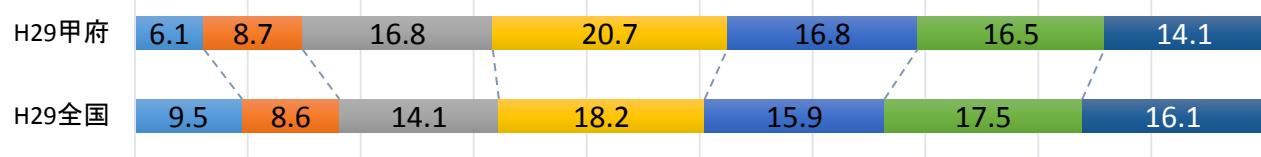


普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンのゲームをする時間を除く）

（小学校）



（中学校）



【改善のための方策】

新学習指導要領第1章第1の2の(1)の中にも「家庭との連携を図りながら、児童（生徒）の学習習慣が確立するように配慮すること」とある。家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割があり、確かな学力の向上には欠かせないものである。

○「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る

① 学校としての家庭学習の方針や目的

② 児童生徒の家庭学習の実態と目標

③ 課題の内容と量

・授業と関わる課題で児童生徒が取り組める内容

・課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習・復習・自主課題など）

・児童生徒が意欲的に取り組める分量

(統一、徹底していくというチームとしての取組が必要。一方で、その児童生徒に合った量や質を考慮していくことも必要)

④ 家庭学習の意欲の維持のさせ方

・家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）

・努力を認める声かけや励まし

⑤ 児童生徒への家庭学習の指導

○家庭への協力を依頼する

① 家庭学習の具体的な内容・方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。

② 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。

③ 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。

④ テレビやビデオ・DVDの視聴時間、ゲーム、携帯電話・スマートフォンの使用時間などについてルール作りを行うことを促す。

<引用・参考資料>

- ・「小学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「中学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「平成29年度全国学力・学習状況調査結果」（文部科学省・国立教育政策研究所）
- ・「平成28年度甲府市における調査結果のポイント」（甲府市教育委員会）

資料 平成29年度甲府市学校教育指導重点に関する

平成29年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

国・県両方を上回っている ◎	国もしくは県を上回っている ○	国・県両方を下回っている △
----------------	-----------------	----------------

1. 重点目標「思い遣る心の育成」に関わる設問の回答状況

難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する (児童生徒質問紙 設問5)	小学校：全国を上回る 中学校：全国を上回る	○
将来の夢や目標を持っている (児童生徒質問紙 設問10)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国を上回る	◎
人の役に立つ人間になりたい (児童生徒質問紙 小設問53 中設問55)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国を上回る	○
地域社会などでボランティア活動に参加する (児童生徒質問紙 小設問43 中設問45)	小学校：全国を上回る 中学校：全国・県を上回る	○
人が困っているときは、進んで助ける (児童生徒質問紙 小設問51 中設問53)	小学校：全国を上回る 中学校：全国を上回る	○

2. 重点項目に関わる設問への回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

○小中連携の推進

近隣の小・中学校と授業研究等合同研修を実施 (学校質問紙 小設問77 中設問76)	小学校：全国・県を下回る 中学校：全国・県を下回る	△
		△

○キャリア教育の推進

「職場見学・職場体験」 (学校質問紙 小設問86 中設問84)	小学校：全国を下回る 中学校：全国を上回る	△ ◎

○特別な教育的な支援が必要な児童生徒への指導の充実

特別支援教育の理解に基づく指導の工夫 (学校質問紙 小設問75 中設問74)	小学校：全国を上回る 中学校：全国・県を上回る	○ ◎

②確かな学力の育成

○読書活動の充実

学校図書館を活用した授業の計画 (学校質問紙 設問22)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国・県を下回る	◎ △
平日の読書時間（30分以上） (児童生徒質問紙 設問18)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国・県を上回る	◎ ◎

○規範意識の醸成、生命を尊重する心の育成

学校のきまり・規則を守る (児童生徒質問紙 小設問49 中設問51)	小学校：全国を上回る 中学校：全国を上回る	○ ○
いじめはどんな理由があってもいけない (児童生徒質問紙 小設問52 中設問54)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国を上回る	◎ ○

○家庭と連携した家庭学習

保護者に対する家庭学習を促す働きかけ (学校質問紙 小設問94 中設問92)	小学校：全国・県を上回る 中学校：全国を上回る	◎ ○
---	----------------------------	--------

③「思い遣る心」を育む生徒指導の推進

○個性を認め合い、ともに成長していく集団づくり、心の居場所づくり

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある (児童生徒質問紙 小設問37 中設問39)	小学校：全国を上回る 中学校：全国を上回る	○ ○
--	--------------------------	--------

④健康・体力の向上

○基本的生活習慣の確立

朝食を毎日食べる (児童生徒質問紙 設問1)	小学校：全国・県を下回る 中学校：全国・県を下回る	△ △
毎日、同じくらいの時刻に寝る (児童生徒質問紙 設問2)	小学校：全国を上回る 中学校：全国・県を上回る	○ ◎
毎日、同じくらいの時刻に起きる (児童生徒質問紙 設問3)	小学校：全国を上回る 中学校：全国を上回る・県と同値	○ ○

平成29年度 甲府市学校教育指導重点

目標

甲府の子どもの教育

豊かな感性とたくましい行動力を持ち、互いのよさを認め合いながら、進んで自己の課題に取り組むことのできる、心身共に健康な児童生徒の育成を目指す。

重点目標

・「思い遣る心」の育成
・「生きる力」を育む教育の展開

「生きる力」を育む
教育課程の編成

確かな学力の育成

□「思い遣る心」の育成を重視し、「生きる力」を育む、保幼少及び小中連携を意識した教育課程の編成と実施に努める。

1 「生きる力」を育む教育課程の編成と確実な実施に努める。

① 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成と実施
・教育課程に基づく保幼少及び小中連携の推進

2 将来の生き方をみつめた体系的なキャリア教育の推進に努める。

・各発達段階に応じた指導計画に基づく指導の充実

3 特別な教育的支援の必要な児童生徒の教育の推進に努める。

・家庭及び関係機関と連携し、児童生徒の的確な実態把握に基づく個に応じた指導の充実

□基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養い、「思い遣る心」の育成に資する。

1 組織的・計画的に授業改善に取り組み、確かな学力の育成に努める。

① 「甲府スタイル」の授業を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり

・基礎的・基本的な内容の確実な定着
・言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

・学びの意欲や学ぶ喜びを育てる学習指導
② 家庭と連携した学習習慣、読書習慣の確立

2 自己をみつめる力と「思い遣る心」を持つ道徳的実践力の育成に努める。

・全教育活動を通しての一貫性のある道徳教育の推進

① 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた授業づくりと評価の工夫

・規範意識の醸成、生命を尊重する心の育成

3 楽しく豊かな学校生活を築くための特別活動の充実に努める。

・望ましい集団活動を通しての自主的実践的態度の育成

「思い遣る心」を育む
生徒指導の推進

□学校いじめ防止基本方針に基づくいじめへの対応、不登校・暴力等への対応を最優先課題とし、愛と信頼に基づく心のふれあう人間関係をつくり、「思い遣る心」の育成に努める。

1 校内指導体制の確立と機能強化に努める。

① 共通理解と統一した指導方針に基づく、組織的な生徒指導
・共感的で適切な児童生徒理解、教師と児童生徒との信頼関係に基づく生徒指導

2 教育相談の充実強化に努める。

・教職員とスクールカウンセラー等との連携による教育相談

3 存在感が実感できる体験的・実践的活動の推進に努める。

・公共心と「思い遣る心」を基調としたボランティア活動等

4 家庭・地域・関係機関との連携を密にした生徒指導の推進に努める。

① 児童生徒を中心に据え、家庭、地域、関係機関の役割分担に基づく協働

・家庭、地域と連携した情報モラル教育

5 お互いの個性を大切にし、差異を認め合う態度の育成に努める。

・個性を認め合い、ともに成長していくことのできる集団づくり、心の居場所づくり

健康・体力の向上

□「生きる力」の基盤である、健康・体力・安全に関する資質と能力の育成に努める。

1 自己管理能力の育成と体力向上の基礎の育成をめざした健康・安全指導の推進に努める。

・基本的生活習慣の確立
① 日々運動に親しむ習慣の確立

・食育、がん教育等の健康教育の推進

□「思い遣る心」「生きる力」の基盤となる家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 全教職員の共通理解に基づく指導体制の確立に努める。

・学校関係者評価を含めた学校評価に基づく指導体制の一層の工夫改善、充実とその公表

2 家庭や地域との一層の連携を図り、信頼される学校づくりに努める。

・積極的な情報発信と授業の公開
① 保護者や地域住民が、学校の教育活動に参加する機会の充実

3 安全管理体制の見直しと充実に努める。

① 安全教育の推進と家庭、地域、関係機関等との連携による安全確保の徹底

・個人情報の管理の徹底
・危機管理マニュアルの改善と充実、危機発生時における迅速な対応